

高等教育研究センター

かわらばん

秋号
名古屋大学
高等教育研究センター
ニュースレター第36号

大学運営の知

経験を共有知に変換するために大切にしたいこと

大学は知識の宝庫なのか。この問いに対する答は自明です。大学では日々、地道な研究を通じて、新たな知識を創造しています。人々がこれまでに知り得えなかった数々の知識を、継続的に、かつ大量に創造するという点で、大学は他にはない機能を担っています。単に知識を創造するだけでなく、集積し保存すること、それを多くの人々が活用できるように適切な形で発信すること(教育や社会貢献も含めて)も、同時に責務としてあります。

大学運営という経験 知識を創造する活動といえます。研究ですが、じつは教育や大学運営の仕事も該当します。大学運営の仕事から知識が生み出されると聞くと、違和感を覚える方もいるでしょうか。しかし、教育活動や大学運営を通じて生み出される知識の価値は、今ますます高まっています。

この問いに対する答は自明です。大学では日々、地道な研究を通じて、新たな知識を創造しています。人々がこれまでに知り得えなかった数々の知識を、継続的に、かつ大量に創造するという点で、大学は他にはない機能を担っています。単に知識を創造するだけでなく、集積し保存すること、それを多くの人々が活用できるように適切な形で発信すること(教育や社会貢献も含めて)も、同時に責務としてあります。

大学運営という経験 知識を創造する活動といえます。研究ですが、じつは教育や大学運営の仕事も該当します。大学運営の仕事から知識が生み出されると聞くと、違和感を覚える方もいるでしょうか。しかし、教育活動や大学運営を通じて生み出される知識の価値は、今ますます高まっています。

この問いに対する答は自明です。大学では日々、地道な研究を通じて、新たな知識を創造しています。人々がこれまでに知り得えなかった数々の知識を、継続的に、かつ大量に創造するという点で、大学は他にはない機能を担っています。単に知識を創造するだけでなく、集積し保存すること、それを多くの人々が活用できるように適切な形で発信すること(教育や社会貢献も含めて)も、同時に責務としてあります。

大学運営という経験 知識を創造する活動といえます。研究ですが、じつは教育や大学運営の仕事も該当します。大学運営の仕事から知識が生み出されると聞くと、違和感を覚える方もいるでしょうか。しかし、教育活動や大学運営を通じて生み出される知識の価値は、今ますます高まっています。

この問いに対する答は自明です。大学では日々、地道な研究を通じて、新たな知識を創造しています。人々がこれまでに知り得えなかった数々の知識を、継続的に、かつ大量に創造するという点で、大学は他にはない機能を担っています。単に知識を創造するだけでなく、集積し保存すること、それを多くの人々が活用できるように適切な形で発信すること(教育や社会貢献も含めて)も、同時に責務としてあります。

大学運営という経験 知識を創造する活動といえます。研究ですが、じつは教育や大学運営の仕事も該当します。大学運営の仕事から知識が生み出されると聞くと、違和感を覚える方もいるでしょうか。しかし、教育活動や大学運営を通じて生み出される知識の価値は、今ますます高まっています。

この問いに対する答は自明です。大学では日々、地道な研究を通じて、新たな知識を創造しています。人々がこれまでに知り得えなかった数々の知識を、継続的に、かつ大量に創造するという点で、大学は他にはない機能を担っています。単に知識を創造するだけでなく、集積し保存すること、それを多くの人々が活用できるように適切な形で発信すること(教育や社会貢献も含めて)も、同時に責務としてあります。

大学運営という経験 知識を創造する活動といえます。研究ですが、じつは教育や大学運営の仕事も該当します。大学運営の仕事から知識が生み出されると聞くと、違和感を覚える方もいるでしょうか。しかし、教育活動や大学運営を通じて生み出される知識の価値は、今ますます高まっています。

この問いに対する答は自明です。大学では日々、地道な研究を通じて、新たな知識を創造しています。人々がこれまでに知り得えなかった数々の知識を、継続的に、かつ大量に創造するという点で、大学は他にはない機能を担っています。単に知識を創造するだけでなく、集積し保存すること、それを多くの人々が活用できるように適切な形で発信すること(教育や社会貢献も含めて)も、同時に責務としてあります。

いは、公式会議の記録がせいぜいでしよう。大学で日々行われている多岐にわたる議論をカバ―するには、無理があります。非公式のものも含めて、より多くの記録資料が対象になるべきと考えられます。

しかし、全学で産出される資料の量は膨大ですから、残すべき文書の選定も重要です。どのような資料がどこで作られているのかを知り、関係者の協力を得てそれを収集することがまず必要です。大学関係の資料が大学だけに所蔵されているとは限らないのです。さらに重要なのは、何を残すかです。どのような資料が後々役に立つのか、この判断には、高度な専門性が伴わなければなりません。

教育、研究をはじめ、大学の多様な活動や事情に通じた人が、長期的な観点を持って選定すべきことなのです。

さらに、収集資料を適切な環境で保存し、公開しなければなりません。この仕事は地味ですが、これによってようやく、経験を共有知に変換する土台ができていくのです。適切な時期に、適切なテーマで調査や検証がなされるのを待つばかりです。

ちなみに、名古屋大学で現在の任に当たっているのは文書資料室です。大学文書や記録史料を収集し、保存管理するほか、これらに関する調査研究も行っています。「ちよこつと名大史」

などの出版物作成は、調査研究に基づいた事業です。もちろん、その当時には残せなかった「真実」もあるでしょう。私たち高等教育研究者はどのような事実を後からインタビューによって掘り起こすことができるか。その際にも、議事録や報告書などの一次資料はとて重要な役割を果たします。

今後ますます複雑化する大学運営のあり方を考える際に、過去の経験を検証しつつ学ぶこと、

そのための文書資料を保存することは、大学には不可欠です。また、大学史を編纂し公表することを社会から要請される名古屋大学のような機関では、関連資料は当該大学だけでなく社会の各方面にとって重要なものとして、大学の社会的責任のひとつとして、大学運営の資料を保存することに對して一層の注目と理解が集まればと願っています。

(夏目達也)

「研究評価の現状」

大学院生のためのスキルアップセミナー

「研究評価の現状」
— 研究者として知っておくべきこと、研究者コミュニティとして考えていくべきこと —

日時：11月14日[月] 15:00-17:00
場所：ES総合館034講義室
講師：林隆之(大学評価・学位授与機構)

「研究公正入門」
— 研究不正に巻き込まれないために —

日時：11月25日[金] 15:30-17:30
場所：ES総合館034講義室
講師：大須賀壮(理化学研究所)

「人の力を引き出す技法」
— 研究者のためのコーチング入門 —

日時：12月6日[火] 16:30-18:30
場所：理学南館1階セミナー室
講師：中井俊樹(名古屋大学高等教育研究センター)

主催：高等教育研究センター+ GCOE「宇宙基礎原理の探求」



10月11日[火]に理学南館にて「クリティカルシンキングの技法—科学技術論の事例を通して学ぶ—」を開催しました(講師は京都大学の伊勢田哲治氏)。ふたつの対立する意見文を読んだのディスカッションを通じて、反証のしかたやクリティカルシンキングのメタ認知などを経験してもらいました。受講生からは、もうすこし時間をかけて取り組みたいという感想が多く寄せられました。

かわらばんへの皆さまのご意見・ご感想を裏面のEメール
アドレスまでお寄せください

Higher Education Glossary

高等教育にまつわる用語集

ラーニング・コモنزの活用 Activate Learning Commons

「コモنز」とは共有地や入会（いりあい）を指す言葉です。そこから派生して、「ラーニング・コモنز」とは「学習のための共有空間」（以下、LC）を意味します。名古屋大学でもLCが中央図書館の玄関を入ったところに2年前に開設されました。日本の大学にも主として図書館内にこのようなスペースを設ける例が増えてきています。

LCはこれまでの図書館の概念を大きく変えつつあります。その最大の特徴は、文字どおり協同学習を促進する環境をつくりだしたことです。従来の図書館は静粛を保つべき空間でしたが、LCでは日常会話レベルの話し声は差し支えありません。また、名古屋大学の場合には密閉できるドリンクならば持ち込むことを認められています（他のスペースでは不可）。長時間の活動に耐えうように利用することが想定されているからです。

このことは、図書館が「本を借りる」「読む」という個人単位の機能に加えて、「仲間と一緒に調べる」「思案をめぐらす」「相談する」「協力して書く」という総合的・協同的な知的生産活動の拠点へと変貌しつつあることを物語っています。その効用は、所属する研究室の決まっていない学部学生にとってより大きいと考えられます。

一方、電子ジャーナルやデータベースが発達したことにより、教員や大学院生はそれぞれの研究室で必要な情報を検索・入手することができるようになりました。図書館から足が遠のいているのは、むしろ教員の方かもしれません。

学生がLCを最大限に活用するためには、教員側にもいろいろな工夫が必要だと思われまます。たとえば、グループで課題に取り組むような授業を設計し、成績評価にもグループ活動での貢献度を考慮してはどうでしょうか。授業の前半はLC内のセミナールームを使つてのレクチャー、後半はオープンスペースでグループワークという方法も考えられます。図書館のリソースを十分に活用せざるをえないような課題を学生に与えれば、LCの効果をいっそう高めることができそうです。

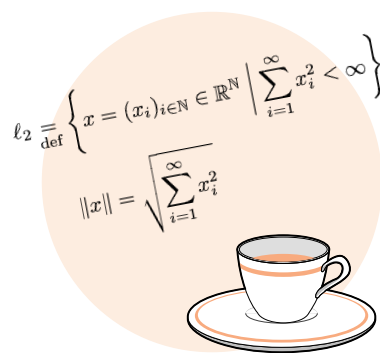
(近田政博)

カフェ・ダヴィッドと私

多元数理科学研究科2階工
レベーター前のスペースでも
う10年近く毎日昼休みに開催
されているカフェ・ダヴィッ
ドは、学生と教員やTAとの
無料の珈琲を交えた交流の場
である。ニューズレター等を
通じて、他部局の教職員にも
わりによく知られた存在のよ
うだ。

ろうという数人の助教の提案
だったという。実際、講義で
あまり質問をしないとかわれ
る最近の学生たちに対して、
質問しやすい環境を提供する
ことに成功していると感じる。
というのも、筆者がまだ学生
だったころ、講義の中ではな
かなか聞くことができなかった
た疑問を、リラックスした雰
囲気の中でTAや若手教員に
ぶつけることができたからだ。

さらに、ほかの学生の質問や、
教員とTAの会話など、豊富
なコミュニケーションのなか
から多くを学んだことを懐か
しく思い出す。カフェ・ダヴ
ィッドでの時間が、研究科へ
の愛着を生んだといっても過
言ではない。
今回、研究科を修了してか
らあらためてカフェ・ダヴィ
ッドについてお話を伺う機会
を得た。そして、「珈琲のお豆
は私たちが買うのよ」と言っ
て嬉しそうに笑う教育研究支
援室の小崎和子さんを見て、



(豊田哲)

この取り組みが10年近くも続
いてきた秘訣を知った気がした。
与えられた学習環境を享受し
ていた側から、学習環境を整
備する側へと変わりつつある
自身の立場を再認識するきっ
かけにもなった出来事だった。

読んでおきたい この1冊

Great Books on University

『変貌する世界の大学教授職』

有本章 編著 玉川大学出版部 2011年

今回紹介する本は、アンケート調査に基づいて世界の大学教授の現状を把握し、日本の大学教授の特徴と課題を明らかにしようとしたものです。教育、研究、管理運営、国際化、労働条件、キャリアなどのさまざまな側面の実態が明らかにされています。18カ国2万人以上の大学教授を対象としたこのような大規模な国際比較調査は少なく、貴重な資料と言えます。

大学の構成員であれば、調査結果から何らかの刺

激を得られることでしょう。時間の使い方に関心のある人は、日本の大学教授の学期中の勤務時間が参加国中2位の長さであることがわかります。教育と研究の関係に関心のある人は、日本の教員が諸外国と比較して研究志向であり、教育と研究の両立を難しいと考える傾向が18カ国中で最も強いことがわかります。国際化に関心のある人は、日本の大学教授が外国の研究者との共同研究をあまり実施していな

い現状がわかります。大学教授の結婚に関心のある人は、日本の女性教員の中で配偶者をもつ比率が18カ国の中で最下位であり、一方日本の男性教員の配偶者の多くがフルタイムで働いていないことがわかります。大学教授のやりがいに興味のある人は、日本の大学教授が諸外国と比較して心理的緊張をより多く抱えているにも関わらず、約7割が現在の仕事に満足していることがわかります。

人件費の削減、職の不安定化、競争の激化などによって、現在の大学教授は厳しい局面に立たされています。今後の大学教授職の展望を考えるためにも、国際比較を通じて日本の大学教授の姿を客観的なデータで知ることは重要だと思います。(中井俊樹)

高等教育研究センタースタッフ (2011年10月現在)

センター長 木俣元一 専門領域：西洋中世美術史
教授 夏目達也 専門領域：高等教育学、技術・職業教育論
准教授 近田政博 専門領域：比較高等教育学、学習支援
准教授 中井俊樹 専門領域：大学教育論、高等教育マネジメント
助教 齋藤芳子 専門領域：科学技術社会論

研究員 東 望歩
豊田 哲
客員 トリシア・カヴァデール=ジョーンズ (英国・ポーツマス大学)
金子元久 (国立大学財務・経営センター)
加藤かおり (新潟大学)
山内乾史 (神戸大学)

名古屋大学高等教育研究センター
〒464-8601 名古屋市中種区不老町
Tel 052-789-5696
Fax 052-789-5695
E-mail info@cshe.nagoya-u.ac.jp
URL http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/